

武藏国分寺跡資料館だより

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum Newsletter

編集・発行

見る／学ぶ／訪ねる／

武藏国分寺跡資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum

[住所] 〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10

[電話] 042-323-4103 [FAX] 042-300-0091

[E-mail] museum@city.kokubunji.tokyo.jp

[HPアドレス]

http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/shisetsu/kouen/1005196/1004239.html

2025.11
第58号



Temporary Exhibition



武藏国分寺跡資料館 令和7年度秋季企画展

国分寺市では昭和49(1974)年以来、年間10~20件ほど遺跡の発掘調査をしています。本企画展は、令和3~4年度に行われた調査のうち、4か所の成果を展示します。本稿では、そのうちの2か所を簡単に紹介します。

武藏国分寺跡第769次調査(西元町2丁目)では、平安時代の竪穴建物跡3軒と須恵器や瓦を転用した硯などが見つかり、その約40cm下からは縄文時代中期の竪穴建物跡2軒・縄文土器や石器などが見つかりました。この辺りは、国分寺崖線下の谷に近く、湧水を得られやすい土地で、先人たちの暮らしのあとが多く残されています。

JR国分寺駅北側の本町(国分寺村石器時代)遺跡の第22次調査(本町2丁目)では、ビルが建ち並ぶ商業地のすぐ近くから縄文時代の竪穴建物跡2軒と、完形に近い縄文土器が見つかりました。

出土資料の展示に加え、遺跡の調査を身近に感じてもらえるよう、発掘調査・整理作業に使用する道具の展示や、今後活用が期待される「遺跡地図GIS」についてもあわせて紹介します。

(酒井美帆)

発掘された国分寺市 2025

■開館時間 午前9時~午後5時

(入館は午後4時45分まで)

■期 間 令和7年10月18日(土)~12月7日(日)

■会 場 武藏国分寺跡資料館 講座室

■入 館 料 「おたかの道湧水園」への入園料が必要

■休 館 日 月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)



本企画展で紹介する調査

- ・武藏国分寺跡第769次調査: 西元町2丁目
- ・武藏国分寺跡第770次調査: 泉町2丁目
(新庁舎建設地)
- ・武藏国分寺跡第776次調査: 東元町3丁目
(リオン株式会社敷地内)
- ・本町(国分寺村石器時代)遺跡第22次調査
: 本町2丁目

縄文早期の土器



武藏国分寺跡第776次調査

縄文中期の土器



本町(国分寺村石器時代)遺跡第22次調査



武藏国分寺跡第770次調査

恋ヶ窪遺跡出土土器の包埋植物の年代測定

小林謙一（中央大学文学部教授）

近年、レプリカ圧痕法とよばれる、土器器面に残る痕跡（有機物が含まれていた跡の空洞）に樹脂を流し込んで型取りし、その型を走査型電子顕微鏡で観察することで種類を同定する手法が発達し、各地の先史時代の土器に含まれる植物遺体や昆虫などを摘出する手法が行われるようになってきた。その結果、縄文時代中期を中心に縄文土器には、栽培種の大きさに相当するマメ類や、コクソウムシなどの痕跡が見いだせる例が増え、日本先史時代の新たな姿が分析されつつある（小畠 2016 など）。

恋ヶ窪遺跡第 115 次調査 SI186J 住居跡から、埋甕としてほぼ完形で出土した縄文中期加曾利 E2 式期の連弧文系（新地平編年 11c2 期）深鉢形土器に表出 9 例および CT スキャンにより検出された潜在圧痕を含め現時点で 26 例のシソ属およびミズキの多量圧痕が確認され、そのミズキの圧痕内から微量有機物が採取されミズキ核と同定された。東京国立博物館にて宮田が CT 撮影を行い、17 例の潜在圧痕をみつけた。大きさ・形状からミズキおよびシソ属と考えられる。

その中の表出圧痕の一つにおいて残存炭化物が摘出された。3 mg の重量で、佐々木によりミズキの核と同定できた。その試料を国立歴史民俗博物館年代測定実験室において通常よりも少ない手順で AAA 处理を行ない、回収した試料を東京大学年代測定室において、微量炭素用のプロトコル（大森ら 2017）にてセメンタイト^{*}を生成し、AMS 法による炭素 14 年代測定（AMS 測定）をおこなった。その結果（測定番号 TKA-29254）は炭素 14 年代で 4172 ± 22 BP、AMS による同位体補正の $\delta^{13}\text{C}$ 値-27.6 ± 0.3 ‰ であった。IntCal20^{*} と OxCal^{*} 4.4 を用いて較正年代を計算すると、4850(20.3%) 4785, 4765(75.1%) 4615 cal BP、すなわち 1950 年から数えて 4750 年前頃の可能性が最も高い結果となった。土器の年代とこれまでの小林による年代測定値はよく合致し、その土器の製作時の年代を表す年代と捉えられる。これまでにも縄文中期後半のミズキが混和される土器は、複数確認されている。土器製作時のミズキの利用を表す、直接的な炭素 14 年代測定は初の事例となった。

表出圧痕を観察すると、9 例の内 7 例（さらにそのうちの 5 例が土器外面）はミズキと捉えられ、うち数例は、連弧状の沈線や、地紋の半截竹管平行沈線の上からミズキが押し込まれており、施文後の意図的な圧痕の可能性が考えられる。それらの圧痕は、半分程度を土器の中に残す様に観察され、土器胎土に混和されていたミズキが外面に顔を出すというような状況ではないと観察され、圧痕周辺にはぜた様な細かい傷跡やめくれたような痕跡はなく、沈線も圧痕を挟んできれいに残っている。さら

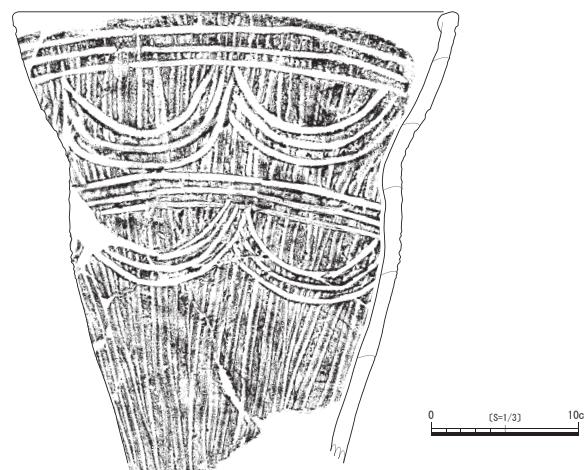
に少なくとも 1 点は、土器内面に上から手を添えて指を押し当てた跡が残り、その外面に表出圧痕が沈線を切る形で残されているのである。

以上の状況より、先に小林らが報告した府中市清水が丘遺跡勝坂式土器（小林ほか 2021）に続く、意図的圧痕を持つ土器である可能性も指摘できる。今後、検討を進めていきたい。

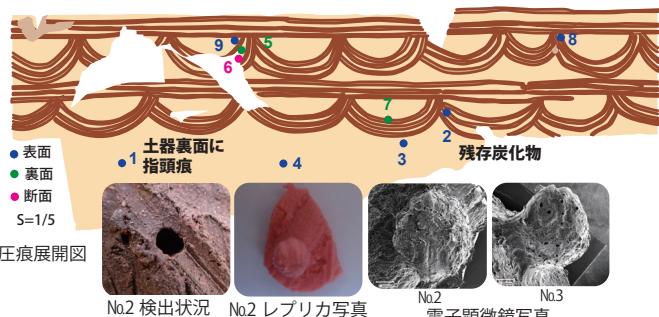
分析関係者：西本志保子、奈良部大樹、小林尚子、佐々木由香、宮田将寛、米田 穩、尾崎大真、大森貴之
協力：国分寺市教育委員会・(株) C E L・国立歴史民俗博物館。なおミズキの多量圧痕例については日本文化財科学会においてポスター発表を行った（小林ほか 2025）。

【参考文献】

- ・大森貴之ほか 2017 「微量試料の高精度放射性炭素年代測定」
第 20 回 AMS シンポジウム
- ・小畠弘己 2016 『タネをまく縄文人 最新科学が覆す農耕の起源』
吉川弘文館（歴史文化ライブラリー）
- ・国分寺市教育委員会 2023 『恋ヶ窪遺跡（第 115 次調査）』
- ・小林謙一ほか 2021 「縄文中期土器文様装飾におけるダイズの意図的混和例」
『日本考古学協会第 87 回総会研究発表要旨』
- ・小林謙一、西本志保子、奈良部大樹、小林尚子、佐々木由香、宮田将寛、
米田 穩、尾崎大真、大森貴之 2025 「土器包埋植物遺体の検出と年代測定・縄文時代の多量圧痕土器の一例」『日本文化財科学会第 42 回大会研究発表要旨集』



恋ヶ窪遺跡第 115 次調査 SI186J 埋甕（国分寺市 2023）



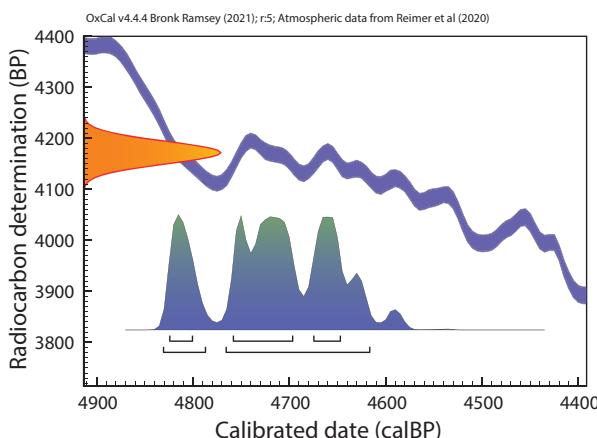
土器への圧痕の位置とレプリカ

土器の外側や内側に 9 か所の圧痕が認められ、レプリカを採取して電子顕微鏡で確認すると、粘土に混ざっていた植物であるミズキやシソ属の跡と確認された。

表出圧痕一覧

1	KKO-R009	外面	ミズキ	果実？
2	KKO-R010	外面	ミズキ	核
3	KKO-R011	外面	ミズキ	核
4	KKO-R012	外面	ミズキ	果実
5	KKO-R013	内面	ミズキ	核
6	KKO-R014	断面	ミズキ	核
7	KKO-R015	内面	不明	ミズキの可能性
8	KKO-R016	外面	シソ属	果実
9	KKO-R017	外面	ミズキ	核

検出圧痕一覧（表出圧痕）



包埋炭化物（ミズキ核）の較正年代確率密度分布（IntCal20, OxCal4.4）

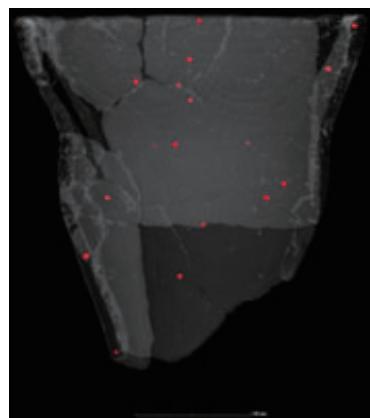
約4800年前から4650年前頃の可能性があるが、確率的には4750～4700年前頃の可能性が最も高い。



装置：エクスロン社製大型 CT X線管：Y.TU600-D02 検出器：YXRD1621 電圧：550kV 電流：1.25mA プロジェクション数：2070 画像構築解像度：約0.26mm

CTスキャン写真

丸く囲った部分に潜在圧痕が確認できる。



CT撮影画像からモデリング

CTスキャン画像を重ねて、空洞部を赤く色付した画像。合計26点の植物遺体が確認できた。

AAA処理^{*}：土壤成分からの汚染除去のために酸-アルカリ-酸で洗浄する処理。

セメントタイト^{*}：鉄と炭素の化合物。

AMS測定^{*}：加速器重量分析法（Accelerator Mass Spectrometry）を用いた放射性炭素年代測定法。

同位体^{*}：(isotope) 同一元素番号を持つものの中性子数（質量数A-原子番号Z）が異なる核種の関係。

IntCal20^{*}：放射性炭素年代測定法で年代を較正するための、2020年に改訂された最新の国際較正曲線。

OxCal^{*}：オックスフォード大学が作成した、ベイズ統計による較正用プログラム。

較正年代^{*}：炭素14年代を、年輪年代や湖沼堆積物などと照合し、より実年代に近づけた年代。

令和7年度 夏季企画展開催報告

令和7年7月25日から9月15日まで、企画展「学校ができた—昭和の記憶と国分寺市—」を開催しました。この展示では、第一小学校から第十小学校までの校舎・プール・体育館の建設風景や、入学式・運動会など学校行事の様子、さらに盆踊りや成人式など、学校が地域の集いの場であった昭和時代の記録写真を展示しました。

また、民俗資料室に所蔵する足踏みオルガン、木製の学校机、授業の区切りに使われた時鐘、セルロイド製の筆箱やアルマイ特製の弁当箱などを展示し、昭和の教室の雰囲気を再現しました。

さらに、国分寺市内の小中学校15校のうち6校の校歌（第一小から第四小学校、第一・第二中学校）を作曲した音楽家・信時潔を紹介。信時が作曲した「電車ごっこ」・「一番星みつけた」は、現在、国分寺駅・

西国分寺駅の発車メロディとして使用されており、この展示では二次元コードを通じてスマートフォンで試聴できるようにしました。

館内のデジタルサイネージでは、学校と地域をつなぐ「国分寺学」の取り組みや実践報告を放映しました。

（相澤 勝）

アンケート・来館者の感想より

- 「小学生の頃の自分を写真の中に見つけた。」
- 「懐かしい記憶がよみがえった。」
- 「まだ展示されてない他の写真も見てみたい。」

国分寺に戻りたくなった。」

- 「五小の同窓生と一緒に来館した。」

またこうした企画を開催

してほしい。」



昭和40年(1965)第五小学校の教室を背景とした足踏み式オルガン、学校机、椅子



昭和33年(1958)から昭和57年(1982)までの学校と地域の記録写真70枚



書籍「アルバム国分寺」を囲み、昭和時代の写真を懐かしむ来館者

INFORMATION

令和7年度 歴史講演会 *事前申込(先着)無料



「国分寺の狩人たちー旧石器時代から縄文時代へー」

市内にある旧石器時代・縄文時代の代表的な遺跡を取り上げながら、時代の特徴と当時の人びとの暮らしを紹介します。

【日 時】11月30日(日)午後2時～4時
(開場は午後1時30分)

【講 師】上敷領 久(元駒澤大学非常勤講師)

【場 所】本多公民館ホール(国分寺市本多 1-7-1)

【定 員】100名

【申 込】右LoGoフォームから(こちら→)



【受 付】締切は、11月24日(月)まで



定員になり次第、締切させていただきます。

【問合せ】国分寺市教育委員会ふるさと文化財課

電話042-312-8683(月～金・午前9時～午後5時)

第38回 多摩郷土誌フェア

*入場無料



多摩地域の郷土・歴史・文化財・自然に関する様々な図書を展示販売します。

【日 時】令和8年

1月17日(土)午前10時～午後5時

1月18日(日)午前10時～午後3時

【会 場】立川市柴崎学習館(立川市柴崎町2-15-8)

地下ホール/JR立川駅南口より徒歩9分。または、多摩モノレール立川南駅より徒歩8分。

※公共交通機関をご利用ください。

【主 催】東京都市社会教育課長会文化財部会

武蔵国分寺跡資料館ご利用案内



■交通のご案内

【電車】◎JR国分寺駅下車/徒歩約20分 ◎JR西国分寺駅下車/徒歩約15分

【バス】国分寺駅下車

- 「国分寺駅西」より国分寺市地域バス『ぶんバス』
万葉・けやきルート「史跡武蔵国分寺跡」下車/徒歩約8分
- 「国分寺駅南口」より『京王バス』
系統番号〈83〉・〈85〉乗車「泉町一丁目」下車/徒歩約8分
- 西国分寺駅下車
○「西国分寺駅東」より国分寺市地域バス『ぶんバス』
万葉・けやきルート「史跡武蔵国分寺跡」下車/徒歩約8分

後援事業のお知らせ

*事前申込 無料



「武蔵国分寺と自然災害 古代史・考古学・災害史」

平安時代全般に相次いで東国を襲った地震などの自然災害、遺跡に残された痕跡、書き残された記録、古代社会の動搖と対応について、考古学と文献史学の専門家が解説します。

【日 時】令和8年1月10日(土)午後1時30分～4時30分

(開場は午後1時)

【講 師】荒井秀規(国分寺市史編さん推進委員会委員)

宮原正樹(埼玉県立さきたま史跡の博物館学芸員)

【場 所】都立多摩図書館セミナールーム1



【定 員】80名

【申 込】右Peatixから(こちら→)

<https://kodai3dgisl1.peatix.com/view>

【主 催】古代寺院3D-GIS科研研究グループ

【問合せ】野口 淳 atsushi.noguchi@komatsu-u.ac.jp

来館者数

2009年10月18日～2025年9月末日

来館者数累計

多くのご来館ありがとうございました

208,478名

【4月～9月の学校見学】

	学校	人数
小学生	7	502
中校生	1	3
高校生	1	3
大学生	2	4
計		5,866

【来園校】市立一小(6年生)、市立四小(6年生)、市立六小(6年生)、市立七小(6年生)、市立十小(3,6年生)、東京電機大学中学校・高等学校・東京経済大学・日本大学

○来館者数は、おたかの道湧水園の入園者数

月	来館者数	開館日数
4	1,232	26
5	1,341	27
6	913	25
7	620	27
8	787	27
9	973	25
計	5,866	157

○来館者数は、おたかの道湧水園の入園者数

■開館時間

午前9時～午後5時(入園は午後4時45分まで)

■休館日

毎週月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)

年末年始(12月29日から1月3日まで)

※展示替えなどで臨時休館することがあります。

■入館料

資料館に入館するには「おたかの道湧水園」への入園料が必要になります。(入園券は史跡の駅で販売)

一般……………100円(年間パスポート1,000円)

中学生以下…………無料

【入園料の減免規則があります】

(1) 学校の教育活動で生徒(中学生を除く)、学生及び引率の教職員が入園するとき〔事前(5日前まで)に減免申請書の提出が必要です。〕

(2) 身体障害者等及びその介護者が入園するとき

〔発券窓口の史跡の駅で身体障害者手帳等の提示が必要です。〕

(3) その他教育長が特別の理由があると認めるとき

〔事前(5日前まで)に減免申請書の提出が必要です。〕

※減免申請書は、国分寺市のホームページからダウンロードできます。

